

韓国語の試験対策クラスにおける一考察 ——グループワークを中心とした授業の試み¹——

林 河運

1. はじめに

本稿では、林（2014、2015、2018）のグループワークを取り入れて行った韓国朝鮮語の「文法」、「読む・書く」、「韓国朝鮮語Ⅰ」の授業での研究結果を基に、鳥根大学で実践した「韓国朝鮮語Ⅱの検定対策クラス」の授業について実践報告し、授業後に実施したアンケート調査を基に学習者が学習活動に対してどのような意識を持っているのかについての検討と考察を行う。具体的には、2017年度と2018年度に筆者が担当した講義、「韓国朝鮮語Ⅱ（検定対策）」において、授業の活性化を促すために行ったグループワーク²中心のいくつかの学習活動を紹介し、回収したアンケート調査を精査することで、学習者が授業全般と各学習活動についてどのように評価したのかを考察する。その後、本稿で得られた考察の結果と知見を踏まえ、韓国朝鮮語教育の質の確保と改善に向けてそれに沿った授業の実践と教材作成に反映していきたい。

2. 授業科目の概要

本稿の調査対象である「韓国朝鮮語Ⅱ」は、前期の「韓国朝鮮語Ⅰ」の単位を修得した生徒を対象に、後期に週1回の1単位の授業として開講されている。授業の対象の学年は全学部の1回生から4回生である。授業の目的は、韓国語能力試験の合格を目指す対策クラスであり、そのうち一番レベルの低いTOPIKⅠの1級合格をするための運用能力を養うことと、英語以外の外国語を学ぶことで多元的文化的理解を目指すことである。また、科目の達成目標として設けているのは、以下の4つである。

- (1) ハングル能力検定試験（ハングル検定）4級、韓国語能力試験1級程度の韓国・朝鮮語を理解し、適切に運用することができる。
- (2) 現代韓国・朝鮮語圏文化を理解することができる。
- (3) 英語以外の外国語を学ぶことで、日本語、日本文化をより客観的に見る視点を獲得し、多くの文化が共生する地球に生きている自覚と責任を持つことができる。
- (4) 大学生として新たな外国語を学ぶことで、これまでの学習方法や学習観を自ら振り返って客観化でき、それらを主体的・能動的に転換することができる。

¹ 本稿は林（2014、2015、2018）で報告した内容を便宜上改めて述べている箇所が多々あること断っておきたい。

² 小栗裕子（2019）は、コミュニケーション能力重視の英語教育における研究ではあるが、ペアやグループワークをすることにより、学習意欲を高めることが可能になると指摘している。

3. 授業の質の確保と活性化を促すための試み

ここでは2017年後期と2018年後期に筆者が担当した「韓国朝鮮語Ⅱ（試験対策）」科目において授業の質の確保と活性化を促すための実践とグループワークを積極的に取り入れた試みについて述べる。

3.1 調査対象³

本稿の調査対象は「韓国朝鮮語Ⅱ（試験対策）」を履修している医学部を除いた全学部の学習者⁴である。クラスの人数は、「2017年度後期の月曜日クラス」が36名、「2017年度後期の水曜日クラス」が24名、「2018年度後期の金曜日クラス」が22名である。学年は、3年生が1人いて、他の学生はすべて1年生である。性別は、男性が39人で、女性が43名で、合計82名である。学習者全員日本語母語話者である。

3.2 授業の具体的な進め方

筆者は授業の進行において、次の点を念頭に入れて授業を行っている。(1) 分かりやすく楽しい授業を心掛ける、(2) 受け身で聞いているだけの学習者から知的好奇心を呼び起こし、できるだけ主体的な学びとなるようにする、(3) グループワークを積極的に取り入れて学習者同士の連帯感が生まれるようにし授業の活性化とともに知識が深化できるように努める、(4) 動画での音声資料を提供し、いつでもリスニングの勉強が出来るようにする、(5) 韓国や韓国文化・社会についても興味を持つようにするために、韓国や韓国文化・社会についての紹介も随時行い、興味促進とともに主体的な学びとなるように働きかける、(6) 学習者の利便性を図るために、辞書アプリ⁵を用いて授業を行う。

以下に、授業の具体的な進め方⁶について時間順に沿って紹介する。

- (1) 学習者と接する機会を増やすために、授業スタート10分前に教室に入る。また、早めに教室に入りその日に使うプリントの配布と韓国文化・社会の紹介のためのパソコンのセッティングなどを行う。
- (2) 毎回授業の最初に、単語テスト（ペーパーテスト）を行う。その後、学習者同士でテスト用紙を交換し採点をさせて、瞬時に間違いを確認できるようにしている。（15分）
- (3) 単語テスト後は、グループワークが出来るように移動させ、今日のリーダーを決めさせる。リーダーの選出は学習者の負担を減らすため、毎回じゃんけんで決めてもらっている。

³ 調査対象は、名簿通りの人数から欠席が多くて未修になった学習者や検定試験を合格し単位認定をもらう予定の学習者、また、アンケート調査時に欠席をした学習者と出席はしたが誠実に答えてくれなかった学習者のアンケートを除いた人数である。因みに、名簿通りの人数は以下の通りである。「2017年度の月曜日クラス」が38名、「2017年度の水曜日クラス」が30名、「2018年度金曜日クラス」が31名である。

⁴ 筆者以外の教員から韓国朝鮮語Ⅰを学んだ学生も含まれている。

⁵ 辞書アプリは、papagoというアプリとgoogle翻訳という2種類のアプリを初回の授業時にダウンロードしてもらい授業を行う。それは、アプリによって訳が違うときがあるから学習者同士で意見交換しつつ答えを絞り出すようにするためである。

⁶ この授業は、TOPIKIの1級合格のための検定対策クラスなので、読解とリスニングの授業を交互に行っている。

(5分)

(4)その後、グループのメンバー同士で問題に関する文章を辞書アプリを用いて訳していく。この時も問題の選択文のプリント⁷は事前に配らないで、別途同時に配り対戦式で行っている。その理由は、学習者の学習意欲を出させるためである。この際、授業者は各グループを回りながら訳せない表現などを瞬時にフィードバックしていく。(30分)

(5)上記(4)で説明した対戦式のグループワークは、問題に関する文章の日本語訳が全グループ終わった時点で、同時に配った選択文を一斉に確認させ、そこからは先に手を挙げ早く答えてくれるグループを勝ちにする、という形式である。このときもその日のリーダーが答えるように促している。これは、メンバー全員に責任感を感じさせ、グループワークへ積極的に参加させるような意味合いである。(20分)

(6)グループワーク終了後は、今日のおさらいとして練習問題を用意し、復習をしつつ個人でも学習ができるようにしている。(10分)

(7)次回まで覚えてくる単語の確認とともに授業者について2回音読させる。また、次回の授業の概略についての簡単なアナウンスも行う。(5分)

(8)授業終了直前に、テキストに載っていない旅先で使える表現などを教えている。例えば、「これより小さいサイズはありませんか。(イゴボダ チャグンサイズ オブソヨ?)」のような表現である。これもあくまで学習者の学習意欲を呼び起こすための工夫である。(5分)

(9)最後に、授業の内容と時間の都合によって実践できない場合もあるが、パソコンを使ったPPT資料を用いて、日韓の文化・社会の違い、K-POPの歌などを紹介している(10分)。これは、異文化の存在に気づかせることにより、韓国朝鮮語圏という文化圏により興味が湧き、主体的な学習を促すことが目的である。

3.3. 授業実践上の工夫

以下に検定対策というメニューの中で、グループワークを積極的に取り入れた試み⁸と主体的な学習になるよう筆者が授業で実践した学習活動について述べる。

3.3.1. グループワークを取り入れた学習⁹

3.2で述べた(1)「分かりやすく楽しい授業を心掛ける」、(2)「受け身で聞いているだけの学習者から知的好奇心を呼び起こし、できるだけ主体的な学びとなるようにする」、(3)「グループワークを積極的に取り入れて学習者同士の連帯感が生まれるようにし授業の活性化とともに知識が深化できるように努める」を実現するために、グループワークによる学

⁷ 選択文のプリントも順番通りになっていなくランダムに並べているので、メンバー同士で考えながら答えられるように工夫を凝らしている。

⁸ 垣田(1981)は、グループワークがうまくいき効果的に行われると以下のような利点があると述べている。①学習者のコミュニケーション練習の量が増やせる。②練習の内容が多様化する。③グループ内で助け合いなどの相互作用を活発にする。④教師への依頼心が弱まり、学習態度がより積極的になる。⑤学習者中心の主体的で自由な活動を可能にする。

⁹ 筆者は学習者同士が相互協力しながらそれぞれの意見をぶつけ合い、統合していく作業が学習者の知識深化には大切であると考えている。また、(岡坂1991;林・朴2017;林2018)に指摘されているとおり、学習者個々人がグループの中で何をしなければならないのかを授業時に具体的に示している。

習活動を授業中に積極的に取り入れて行った。そこで、筆者は以下のような点に十分配慮し、グループワークによる学習活動が効率的な活動として機能できるよう工夫を凝らした。

3.3.1.1. グループの編成方法

学習環境によって様々であるが、「韓国朝鮮語Ⅱ（試験対策）」の授業は全学部の学習者が参加する授業なので、学部ごとの人数と男女の割合を考慮し、できるだけ均等になるようグループ分けを行った。また、2週間に一回程度の割合で2人ずつメンバー交代を行った。これは、他学部生との交流をたくさんさせることにより、グループワークへの参加意識を高めるためである。さらに、なじめないグループを減らすためでもある。

3.3.1.2. グループのリーダーの選出とグループ名¹⁰の決定

グループのリーダーの選出は初回の授業時にグループ分けをし、メンバー同士間のじゃんけんで決め毎回交替するように促している。また、グループ名の決定も初回の授業時にメンバー同士で話し合っ決めてさせている。これは、共通の名前のもとにグループワークをすることで連帯感を醸成させ、そのグループ内での学習意欲を向上させるのが目的である。。

3.3.1.3. 教室選定上の工夫

机と椅子が自由に動けること、また教員がグループに近づき瞬時にフィードバックができるスペースに余裕のある教室であること、この2点を考慮し教室を選んでいる。

3.3.2. 動画での音声資料による学習

3.2で述べた(4)「動画での音声資料を提供し、いつでもどこでもリスニングの勉強が出来るようにする」という心構えを実現するために、動画での音声資料による学習を取り入れて授業を実践した。

動画での音声資料の提供は、授業二回分か三回分毎にiPad用のアプリ(Explain Everything)を用いて作成し、それをユーチューブに載せて事後学習ができるようにした。これは、いつでもどこでもリスニングの勉強ができる利便性の高い学習方法なので、学習効果が大きいと考えられる。

3.3.3. 辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習

3.2の(6)「学習者の利便性を図るために、辞書アプリを用いて授業を行う」という心構えに応えるため、初回の授業時に全員辞書アプリをダウンロードしてもらい、授業を行っている。筆者は、スマホの普及とともに紙でできている辞書より、辞書アプリを有効活用した方が経済的にも時間的にも効率が良いと判断していた。しかし、辞書アプリを用いる際には以下のような注意すべき点もある。

¹⁰ 可能な限り、韓国と韓国朝鮮語に関連するものに限って決めてもらっている。

- ①文章を訳すときにはスキャンを通じた検索はしないこと。
 - ②教員の声を直接拾って音声検索するのは禁止。必ず、地声で検索すること。
- 筆者は上記の2点に十分注意を払い、学習者にも注意するよう促している。

3.3.4. 異文化理解のための学習

3.2 で述べた (5)「韓国や韓国文化・社会についても興味を持つようにするために、韓国や韓国文化・社会についての紹介も随時行い、興味促進とともに主体的な学びとなるように働きかける」という教育方針に應えるため、教員が作成した日韓の文化・社会の共通点や相違点¹¹、韓国で流行っているものについてのパワーポイント資料や映像などを用いて授業中に紹介し、学習動機の向上と主体的な学習になるよう働きかけている。このように間接的ではあるものの、異文化に触れる機会を数多く取り入れることにより、自文化と異文化に対する興味が湧き授業の活性化にも主体的な学習にもつながると確信している。

4. 授業後のアンケート調査の結果と考察

ここでは最後の授業時に実施したアンケート調査の考察結果について述べる。「韓国朝鮮語Ⅱ（検定対策）」科目の授業に参加した学習者82名に対して、(1)「グループワークを取り入れた学習」(2)「動画での音声資料による学習」(3)「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習」(4)「異文化理解のための学習」について学習者がどのように感じているのかを選択式の質問項目とそれぞれの取り組みについての自由コメント欄を設けて回答してもらった。また、アンケート用紙の最後には「韓国朝鮮語Ⅱ（検定対策）」科目を受講した後の授業全般に対する学習者の率直な感想も自由記述式で記述してもらった。

4.1. グループワークを取り入れた学習に対する学習者の感想から

表1は学習者に「グループワークを取り入れた学習」について尋ね、回答してもらった意見である。質問1「グループワークを取り入れた学習？」に対し、「よい」と答えた者が全体の98%近くいて、学習者に高い支持を得ていることがうかがえる。質問2の「質問1で「よい」と答えた理由は？」として最も多かったのは「リラックスした雰囲気楽しく学習できるから」である。これは、教員との対面授業ではなく学習者同士でのグループワークであるため、リラックスした雰囲気楽しく学習に取り組むことができたと思われる。第二、三の理由としては、「友達と協力してやれるから」と「従来と違うスタイルで面白いから」で両方とも2割程度である。分からない部分を学習者同士の話し合いで確認できることと、従来の試験対策クラスでは座学的な授業が主流であるため、グループワークを中心とした試験対策クラスは新鮮味があり、楽しく学習することができたと推察される。

それとは逆に、質問3の「質問1で②または③と答えた人の場合、その理由は？」に対して、

¹¹ 実際に行った異文化学習は、「日韓の学園祭の違い」、「韓国旅行時に注意すべき点」、「韓国のお正月の紹介（日本と比べつつ）」、「韓国旅行のときのお土産の紹介（定番と流行りもの）」、「韓国で流行っている映像の紹介」、「観光地の紹介」などである。

「グループで学習する自体が好きではなく、なじめないから」と答えた人が1人いた。この意見に関しては、毎年数は少ないものの必ず出てくる回答であり、人との関わりが苦手な学習者に対しては教員が常に注意を払うなど、的確なフィードバックが必要であると実感している¹²。質問4の「グループワークを取り入れた学習でグループ間の競争は？」と尋ね、「よい」と答えた学習者の割合が約76%で、「よくないとどちらとも言えない」を合わせた割合が約24%である。これに関しては、自由コメント欄の「回答を先に答えるシステムは見直してほしい」という意見からも分かるように、少なくとも試験対策クラスでは、グループワークでの対戦は改善の余地があると見受けられる。

さらに、質問5の「グループワークを取り入れた学習は勉強（理解）に役に立ったかどうか？」に対しては、「役に立った」と答えた学習者の割合が約9割近くいる。つまり、「どちらとも言えない」と回答した者が7人いたが、筆者が施したグループワークを取り入れた学習が学習者の韓国朝鮮語の勉強と理解に有意義な取り組みであることを意味するだろう。

表1. 「グループワークを取り入れた学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問1. グループワークを取り入れた学習は？		
① よい	80	97.6%
② よくない		
③ どちらとも言えない	2	2.4%
質問2. 質問1で①または③と答えた人の場合、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	21	15.0%
② リラックスした雰囲気楽しく学習できるから	45	32.1%
③ 話し合ううちに韓国朝鮮語（内容）に関する興味を深めるから	8	5.7%
④ 友達と協力してやれるから	36	25.7%
⑤ 友達同士で互いに分からない点など聞きやすいから	19	13.6%
⑥ 刺激を受けて、よく学習するようになるから	2	1.4%
⑦ 対戦式なのでやる気が出るから	9	6.4%
⑧ その他（具体的に書いてください）		
質問3. 質問1で②または③と答えた人の場合、その理由は？		
① 一斉授業の方が慣れているから		
② 友達間の勉強では不安だから		
③ グループで学習すること自体が好きではなく、なじめないから	1	
④ 時間をかける割には能率が上がらないから		
⑤ 先生に当てられる心配もなく、サボるようになるから		
⑥ グループに協調性がなく、覇気にかけるから		
⑦ グループのメンバーが気に入らなくてやる気が出ないから		
⑧ その他（具体的に書いてください）		

¹² 教員の判断のもとで該当する学習者に対してはグループ替えを行うなどの処置を施している。

質問4. グループワークを取り入れた学習でグループ間の競争は？		
① よい	62	75.6%
② よくない	3	3.7%
③ どちらとも言えない	17	20.7%
質問5. グループワークを取り入れた学習は勉強（理解）に役に立ったかどうか？		
① 役に立った	75	91.5%
② 役に立っていない		
③ どちらとも言えない	7	8.5%

以下は、「グループワークを取り入れた学習」に対し、表1の質問の他に学習者に自由コメント¹³を記入してもらった結果である。多数寄せられたコメントの中から筆者が選定を行い、肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけて紹介する。

- おもしろかったし、やる気になった。
- 自分の意見でなく他人の意見をきくことができた。
- やる気が出たので良かった。
- 楽しく授業をうけた。
- とてもたのしくて時間が経つのが早く感じました。
- 協力してできたので良いと思う。
- 調べた文章や単語をグループで共有できるのは効率が良くていいなと思いました。
- 他学部と交流できて楽しかった。
- 本気で取り組めるいいきっかけになったと思います。一人でやっていたらモチベーションが保てなかったと思います。
- グループで分担してやった方が集中してはやく解けるので良いと思いました。
- 役割分担をしているので効率が良いなおもった。
- みんなで相談しながらできました。
- 色々な学部の人と仲良くなれてよかった。(友達がふえた。)
- 一人でするより楽しくて良かったです。
- 勉強意欲が増して良かったです。
- ★1グループの人数が多いかなと思いました。
- ★グループを変えても同じ人となるが多かったので、移動方法とかを変えたらもっと良いと思いました。
- ★回答を先に答えるシステムは見直してほしい。

4.2. 動画での音声資料による学習の感想から

表2は学習者に「動画での音声資料による学習」について尋ね、返答してもらった結果である。質問1「動画での音声資料（リスニング）の提供は？」に対し、「よい」と答えた

¹³ 自由コメントは原文のまま載せているし、15個から20個程度にして紹介している。

者が約 99%近くいて、学習者に圧倒的な支持を得ていると言えよう。質問 2 の「質問 1 で「よい」と答えた理由は？」に対し最も多かった回答は「家で一人でも学習できるから」で、次に多かったものとして「いつでも復習ができるから」である。これは、動画での音声資料(リスニング)による学習が家で時間の制限もなくいつでも自由に勉強できることと、分からない部分があれば繰り返して確認することもできるため、学習者に高評価を得たと考えられる。また、質問 4 の「動画での音声資料による学習は勉強(理解)に役に立ったかどうか？」と尋ね、「役に立った」と答えた学習者が約 94%である。つまり、「動画での音声資料による学習」を通じて対面授業だけだと足りない部分を事後学習ができることにより、学習者の勉強と理解に役に立つ取り組みであったことが示唆される。

その反面、質問 3 の「質問 1 で②または③と答えた人の場合、その理由は？」として「勉強に役に立つと思わないから」を挙げた学習者が 1 人いた。また、自由コメント欄には「時々難しい問題があるなと思いました」という意見も寄せられた。この意見を踏まえて、問題のレベルを調整するなどの改善を通じて有益な学習活動になるよう修正していきたい。

表 2. 「動画での音声資料による学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問 1. 動画での音声資料(リスニング)の提供は？ ① よい ② よくない ③ どちらとも言えない	81 1	98.8% 1.2%
質問 2. 質問 1 で①または③と答えた人の場合、その理由は？ ① 従来と違うスタイルで面白いから ② リラックスした雰囲気楽しく学べられるから ③ いつでも復習ができるから ④ 家で一人でも学習できるから ⑤ 勉強に役に立つと思うから ⑥ その他 ¹⁴ (具体的に書いてください)	9 4 37 56 21 1	7.0% 3.1% 28.9% 43.8% 16.4% 0.8%
質問 3. 質問 1 で②または③と答えた人の場合、その理由は？ ① 楽しいと思わないから ② You Tube での音声資料を提供すること自体が好きではなく、なじめないから ③ 時間がもったいないから ④ 勉強に役に立つと思わないから ⑤ その他(具体的に書いてください)	1	
質問 4. 動画での音声資料による学習は勉強(理解)に役に立ったかどうか？ ① 役に立った ② 役に立っていない ③ どちらとも言えない	77 1 4	93.9% 1.2% 4.9%

以下は、「動画での音声資料による学習」に対し、表 2 の質問の他に学習者に自由コメン

¹⁴「その他」には、「スマホで使えるので便利」があった。

トしてもらった結果である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

- 何回でも自分のタイミングのできるので良かった。
- 家でも発音確認ができて良かった。
- いつでも開けて、どこでも勉強できるので良いと思う。
- 試験でリスニング問題が出る限り、必ず必要だと思う。
- 分かりやすい。自分のペースでできる。
- 止めて繰り返したり何回も聞ける所が良いと思う。
- 何回も聞くことができるので良かった。
- すごく分かりやすいし、何度も聞けるので良かったです。
- 好きなときに見れる（聞ける）ので良いと思います。
- 本当に助かった。アクセスもしやすい。
- リスニング対策がしっかりできるのでよかったです。
- 何度もきけるから勉強する際に都合が良い。
- 正しい発音で学べて良かったです。
- スマホで学習できて便利だった。
- すぐ聴けるていうところが魅力的。
- ★時々難しい問題があるなと思いました。

4.3. 辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習の感想から

表3の質問1の「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習？」に対し、「よい」と答えた者が全体の8割を超えており、学習者に好評価を得ている様子である。質問2の「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習を「よい」とする理由」において最も多かった理由として、「分らないことばがあればいつでも調べられるから」で、次に多かったのが「従来と違うスタイルで面白いから」である。また、質問4の「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習は勉強（理解）に役に立ったかどうか」に対して、「役に立った」と回答した者は約9割を越えている。前項に述べた他の取り組みと同様に学習者の授業に対する理解と勉強に有効であると言える。これは、学習者が分からない単語や表現があるとき、いつでも手軽に調べることができる利便性の良さから高評価を得たのではないと思われる。

一方で、質問3の「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習を「よくない」とする理由」について、「勉強に役に立つと思わないから」、「時間をかける割には能率が上がらないから」が3人ずついた。また、その他のコメントとして「頼りすぎる面もある」、「ケータイのようりょうが足りなくなる重い」、「力がついているか心配」などの意見も寄せられた。回答の数は少ないもののこの貴重な学習者の意見を考慮し、今後はアプリに頼りすぎないよう工夫を凝らし、瞬時に的確な指示と補助資料などを配りアプリと補助資料をブレンド

した形で授業を行う必要性があると実感している。

表3. 「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問1. 辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習は？		
① よい	70	85.4%
② よくない		
③ どちらとも言えない	12	14.6%
質問2. 質問1で①または③と答えた人の場合、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	24	20.5%
② リラックスした雰囲気楽しく学べられるから	8	6.8%
③ やる気がでるから	3	2.6%
④ 分からないことばがあればいつでも調べられるから	54	46.2%
⑤ ことばを調べているうちに暗記できるから	8	6.8%
⑥ 勉強に役に立つと思うから	17	14.5%
⑦ その他 ¹⁵ （具体的に書いてください）	3	2.6%
質問3. 質問1で②または③と答えた人の場合、その理由は？		
① 楽しいと思わないから		
② 辞書アプリを用いて学習すること自体が好きではなく、なじめないから		
③ 時間をかける割には能率が上がらないから		
④ 勉強に役に立つと思わないから	3	
⑤ 面倒だから		
③ その他¹⁶（具体的に書いてください）	3	
質問4. 辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習は勉強（理解）に役に立ったかどうか？		
① 役に立った	75	91.5%
② 役に立っていない	1	1.2%
③ どちらとも言えない	6	7.3%

以下は、「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習」に対し、表3の質問の他に学習者に自由コメントしてもらった結果である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

- 授業時間以外でも使用できるので良い。
- とても便利なアプリを知れて良かった。
- 韓国語以外の言葉も訳すことができ、役に立った。
- 文章も訳せるので便利。
- 理解が早くできた。
- 辞書アプリを今後も活用していきたいです。

¹⁵「その他」には、「よかったが、スピードに差が出た、辞書アプリの使い方を学べるから、考えても分からない問題もあるので」があった。

¹⁶「その他」には、「頼りすぎる面もある、ケータイのようりょうが足りなくなる重い、力がついているか心配」があった。

- たくさんの言葉を知れる。
- 簡単に調べることができて便利でした。
- 辞書で何度かひいていくうちに覚えられた単語もあったため、よかったです。
- 家でも調べたい単語があるときに調べることができたのでよかったです。
- 辞書アプリでも違うときがあって、そのどこが違うのか勉強になった。
- 知らなかった単語を知れるのも忘れていた単語を思い出せるのもよかったです。
- 辞書アプリは海外旅行で役に立つと思った。
- 効率的に韓国語を学べる。
- 辞書を使うことで、扱う分のバラエティが豊かになったので良かった。
- ★画像で認識してくれる機能は訳す力を付けられない。
- ★アプリに頼りすぎて、テストが難しく感じた。
- ★音声検索に頼りすぎると身につけにくいので、ある程度自分の耳で聞いて予想するのも大事だと思った。
- ★ハンゲルを打つのが大変でした。

4.4. 異文化理解のための学習

表4は異文化理解のための学習について学習者に尋ね記述してもらった結果である。質問1の「異文化理解のための学習？」に対し、「よい」と答えた者が100%であることが観察された。前項のすべての取り組みと同様に、学習者がこの学習について有意義な学習活動であると圧倒的に支持していることになる。次に、質問2の「異文化理解のための学習を「よい」と答えた理由は？」と尋ね最も多かった理由は、「異文化理解ができるから」であり、次に続いたのは「異文化体験を通じて韓国朝鮮語に関する興味を深めるから」である。つまり、普段めったに接することのない異文化学習をすることによって、自文化と異文化との類似点や相違点などに気付くこととなり、自ら学ぼうとする知的探求心がそそられたと推察される。回答の中では「リラックスした雰囲気楽しく学べられるから」を選んだ学習者も25人(18.9%)いるが、これは、試験対策の学習ではないため、リラックスした状態で楽しく異文化について学ぶことができたことと推察される。また、質問4の「異文化理解のための学習は勉強(理解)に役に立ったかどうか」については、9割を少し上回る程度の学習者が「役に立った」と回答している。これは、この異文化理解のための学習を通じて新しい異文化に気づくことにより、学習者の異文化に対する興味と関心が高まり有意義な学習に繋がったと言える。

今回の調査では幸いに異文化理解のための学習を「よくない」と答えた学習者は1人もいなかったが、自由コメントとして興味を引くのは、「体験があると良かった」と回答したことである。この意見から見て取れるのは、やはり学習者たちは体験学習を求めていることである。すなわち、韓国朝鮮語のすべて授業で体験学習を取り入れて行うべきであると確信した。

表4. 「異文化理解のための学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問1. 異文化理解のための学習は？ ① よい ② よくない ③ どちらとも言えない	82	100.0%
質問2. 質問1で①または③と答えた人の場合、その理由は？ ① 従来と違うスタイルで面白いから ② リラックスした雰囲気楽しく学べられるから ③ 異文化理解ができるから ④ 異文化理解を通じて韓国朝鮮語に関する興味を深めるから ⑤ モチベーションのアップにつながってやる気が出るから ⑥ その他（具体的に書いてください）	14 25 49 30 14	10.6% 18.9% 37.1% 22.7% 10.6%
質問3. 質問1で②または③と答えた人の場合、その理由は？ ① 楽しいと思わないから ② 異文化と音楽映像を紹介すること自体が好きではなく、なじめないから ③ 時間がもったいないから ④ その他（具体的に書いてください）		
質問4. 異文化理解のための学習は勉強（理解）に役に立ったかどうか？ ① 役に立った ② 役に立っていない ③ どちらとも言えない	75 7	91.5% 8.5%

以下は、「異文化理解のための学習」に対し、表4の質問の他に学習者に自由コメントしてもらった結果である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

- なかなか知ることのないことを知ることができて良かった。
- 韓国映画などを気にするようになった。
- 贈り物の紹介が印象に残りました。
- 韓国に対する興味が深まりました。
- 日本との共通点や違いを見つけることで、より韓国に興味を持った。
- 韓国のことがもっと好きになりました。
- 色々な文化を知れておもしろかったです。
- 普段知らなかったこと、聞かないことを体験できてよかったです。
- 韓国に行ってみたいと思った。
- あまりみることのないK-POPに興味があった。
- 毎回実施してほしいです。
- 韓国の食べものに興味が湧きました。
- 韓国に興味をもつきっかけになった。

- 言語だけじゃない学習ができてよかった。
- 日本と異なる韓国の文化を学ぶことができたので良かった。
- ★体験があると良かった。

4.5. 授業全般における学習者の感想及び要望から

アンケート調査の最後に、「韓国朝鮮語Ⅱ（検定対策）」科目の受講後の授業全般について学習者の率直なコメント（感想、要望など）を求めた。以下に学習者のコメントを紹介する。今回の調査で否定的なコメントとして「グループで協力して問題を解くという授業は好きですが、グループによってたくさん話ができるところと、できないところがあって、話がしづらいときは大変でした」、「各グループの席をもっと近づけて、リスニングをしやすくする方が良いと思いました」、「個人学習の時間も少し取り入れてほしいと思った」という意見が観察された。この学習者の意見を踏まえてまず、話しづらいグループが出てくるのは割り切るしかないと考えているが、今後の課題として「グループの編成法方とグループワークをする際の学習者の座る位置」をさらに工夫を施し改善していきたい。また、今後はグループワークと個人学習をブレンドした形で授業を行っていく必要があると実感した。本調査で寄せられた学習者の貴重な意見と今回の調査結果を考察分析しながら得られた知見は、今後の韓国朝鮮語教育の改善と授業の質の確保と向上のために反映させていきたい。

- 韓国の文化について前期よりもくわしく知れて良かったです。楽しく学べました。
- 全体的にわかりやすく、優しく楽しく学ぶことができたので良かった。
- 本当にとってもたのしい授業で来るのがたのしみでした。
- グループ学習で友達と教え合いながらできたので、よく学べたと思う。
- 韓国語検定の問題パターンに触れることができたので、また自分で勉強して検定を受けたいです。
- グループワークで協力して問題を解くことで意欲的に学習に取り組み、韓国のことも知れたので良かったです。
- 検定に向けて、どのようなことを注意すれば良いのかがわかった。
- いつも優しく教えてくださるので、分からないところも質問しやすかったです。
- グループワークによって周りの人と交流をはかることができ、良い雰囲気で授業を受けることができました。
- 前期とちがって自分の力で読みといていたり、調べることが多くて楽しく勉強できた。
- 検定対策ということで、色々なパターンの問題をやって、よく出てくる単語などは調べなくてもわかるようになってきたので前期よりも韓国語が身に付いたと思います。
- 最初は難しいなあと思い、とまどっていましたが、なれるとやりやすかったです。
- 先生の授業は学生のペースに合わせながらの授業だったので受けやすかった。
- 分からないところや困っているときたくさん助けてくれました。そのおかげで授業につ

いていきました。楽しかったです。

●授業がグループでやる形なので楽しく韓国語を学べました。友達とも協力できたし、新たな友達もできてよかったです。

●日常に使える韓国の文法とかも学べてとても楽しい授業でした。

●先生の授業がとても好きなのでまた授業をとりたと思った。

●講義の中で一番好きです！

●授業の他にも、文化や音楽のことなど、興味深いことをたくさん教えていただけて良かったです。

授業のふんいきも楽しくしっかり学べた。

●検定を受けようと思うきっかけになってよかったです。

★グループで協力して問題を解くという授業は好きですが、グループによってたくさん話ができる所と、できないところがあって、話がしづらいときは大変でした。

★各グループの席をもっと近づけて、リスニングをしやすくする方が良いと思いました。

★個人学習の時間も少し取り入れてほしいと思った。

5. まとめと今後の課題

本稿では、試験対策クラスでの韓国朝鮮語教育の質の確保と学習意欲向上に向けての知見を得るために、島根大学で行った「韓国朝鮮語Ⅱ（検定対策）」の授業実践を報告し、授業後に実施したアンケート調査を基に学習者が授業中に行った学習活動に対してどのように感じているのかを検討した。

筆者は教育方針として以下のような6点に注意を払い授業を行っている。①「分かりやすく楽しい授業を心掛ける」、②「受け身で聞いているだけの学習者から知的好奇心を呼び起こし、できるだけ主体的な学びとなるようにする」、③「グループワークを積極的に取り入れて学習者同士の連帯感が生まれるようにし授業の活性化とともに知識が深化できるように努める」、④「動画での音声資料を提供し、いつでもどこでもリスニングの勉強が出来るようにする」、⑤「韓国や韓国文化・社会についても興味を持つようにするために、韓国や韓国文化・社会についての紹介も随時行い、興味促進とともに主体的な学びとなるように働きかける」、⑥「学習者の利便性を図るために、辞書アプリを用いて授業を行うようにする」。

そこで、「韓国朝鮮語Ⅱ（検定対策）」の実際の授業では「グループワークを取り入れた学習」、「動画での音声資料による学習」、「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習」、「異文化理解のための学習」を取り入れて授業実践を試みた。授業終了後に実施したアンケート調査の結果、次のような改善点が浮き彫りとなった。主たるものを挙げれば、それは、①「グループ編成の方法とメンバー交代の方法」、②「対戦式のグループワークの改善」、③「取り扱う問題のレベルの調整」、④「アプリに頼りすぎないように積極的に働きかける」、⑤「体験学習を取り入れていけるようにする」の5点に集約できるだろう。

上記のような改善すべき点は多々あるものの、「韓国朝鮮語Ⅱ（検定対策）」の授業での取り組みが学習者に以下のような高い支持と好評価を得て認められていることが確認でき

た。まず、「グループワークを取り入れた学習」で、最も多く寄せられた意見はリラックスした雰囲気楽しく学習できたとの回答で、次に多かったのが友達と協力してやれることができたとの答えであった。これは、分からない単語や表現などを学習者同士で意見交換することにより、リラックスした雰囲気でお互いに刺激を受けながら楽しく学習に取り組むことができたと考えられる。次に、「動画での音声資料による学習」は、家で時間の制限もなくいつでも一人で自由にリスニングの勉強ができるとともに、聞き取れなかった部分があればいつでも復習ができるからという意見が多く観察されたため、主体的な学習活動として有益な取り組みであったことが見受けられる。次に、「辞書アプリ（音声検索を含む）を用いた学習」では、分らない言葉があればいつでも調べられるからという声が多数見られた。つまり、紙辞書より素早く検索できると同時に授業外でも自由に調べられるので、効率的に勉強ができたのだらうと推察される。しかし、アプリに頼りすぎて身につけにくいという意見も少ないものの確認できたので、授業時に教員の的確な指示と働きかけが必要であると考えている。最後に、「異文化理解のための学習」で多く見られた返答としては、普段めったに接することのできない異文化理解ができたことと、異文化理解を通じて韓国朝鮮語に関する興味まで深めることができてよかったという答えであった。これは、普段自ら調べようとしないう貴重な異文化理解の学習を行うことにより、自文化と異文化との共通点や異なる点などにも気付くことができたことから、自然と主体的な学びにつながったと言えるだろう。つまり、この学習活動を行うことによって、自ら学ぼうとする学習意欲がみなぎって主体的な学びにつながるきっかけを作ることができたと示唆される。さらに、今回の調査結果も、学習者がもっとも好む学習活動であると報告している林・朴(2017)や朴・林(2017)と林(2018)と同様な学習者の貴重な意見であったため、韓国朝鮮語の授業の中で必ず取り入れていくべき学習活動であると確信した。

今後、本稿の調査結果から得られた貴重な意見と知見を踏まえ、韓国朝鮮語教育の質の確保と学習意欲の向上が可能な授業環境を整っていききたい。

参考文献

- 林河運(2014)「韓国語学習者の意欲向上を目的とする学習法の試みとその検討—グループによる学習に注目して—」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第9号, 119-133.
- 林河運(2015)「グループ学習を取り入れた韓国・朝鮮語のリーディング授業の実践報告」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第10号, 95-110.
- 林河運・朴瑞庚(2017)「韓国・朝鮮語圏の文化教育授業における実践報告—授業の活性化を促すための試み—」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第12号, 95-111.
- 林河運(2018)「韓国朝鮮語におけるブレンディッド・ラーニングによる授業実践—反転授業の活用—」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第13号, 103-125.
- 岡坂慎二(1991)『グループ学習の技術(教育技術文庫)』明治図書出版.
- 小栗裕子(2019)「学習意欲を高める指導法—コミュニケーション能力育成の視点—」『関

西外国語大学研究論集』第 110 号, 203-211.

垣田直巳 (1981) 『英語科重要用語 300 の基礎知識』 明治図書.

朴瑞庚・林河運 (2017) 「第 2 外国語としての韓国語学習に関する意識調査—島根大学の事例分析—」 『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第 12 号, 111-122.